

農林統計速報

飲用牛乳の消費停滞ぎみ

昭和 38 年 1 月 - 3 月

岡山統計調査事務所調査

1、牛乳生産量

本年 1～3 月の牛乳生産量は左表のとおりで 1 万 8,102 トンであった。これを前年同期に比べると、約 2,000 トン、割合にして 13%の増加となっている。この増加率は、前期(昨年 10～12 月)の 15%に対し、2%低下しているが、このことは 1 月中旬より 3 月上旬の長期にわたる豪雪により、県北部地域において飼料(特に青刈り)の給与不足等を中心とした飼養管理に不十分な点が生じたためではないかと思われる。

牛 乳 生 産 量

	38年 (トン)	37年 (トン)	前年対比 (%)
1 月	5,933	5,235	113.3
2 月	5,532	4,910	112.7
3 月	6,637	5,825	113.9
計	18,102	15,970	113.4

一方、加工用には、1 万 2,647 トンが向けられており、総消費の約 2/3 にあたる、67・5%を占めることとなった。これを前年に比べると、約 333%の大巾な増加であり、牛乳生産量の増加に加えて、継続的な飲用牛乳消費の不振等により、加工向けは、大巾な増加となっている。したがって乳製品の生産は一部工場の規模拡大もあり、バターを中心に活発であるが、反面在庫量も増加している。

3、県外との生乳移出入の状況

1～3 月に県外より移入された生乳は 2,087 トンであり、月別には 1 月 643 トン、2 月 652 トン、3 月 792 トンとなっている。県別には、広島・香川・島根の各県より移入されているが、広島が最も多い。一方移出量は、移入量を下廻る 1,464 トンで月別には、1 月 401 トン、2 月 542 トン、3 月 521 トンであった。移出先は、広島・大阪・兵庫の各府県であるが、大阪へ移出が特に多い。

2、用途別消費量

1～3 月の飲用向消費量は 4,550 トンで、年間を通じ季節的に飲用牛乳(市乳)の需要が最低の時期であるため総消費量の 24・3%を占めているにとどまった。これを前年同期に比べると、約 3%の増加であり、1～3 月の気象的な悪条件はあったとしても、飲用牛乳消費の停滞は昨年 4 月以降続いているといえる。

用 途 別 消 費 量

	38 年 (トン)			前 年 対 比 (%)		
	飲用向	加工向	その他	飲用向	加工向	その他
1 月	1,447	4,190	538	103.9	132.8	116.2
2 月	1,435	3,789	418	100.8	132.7	111.5
3 月	1,668	4,668	572	102.8	133.2	110.4
計	4,550	12,647	1,528	102.5	132.9	112.7